

「伝えたい まどかのこと」 ～通いサービス編～

本来、小規模多機能型居宅介護はデイサービス（通所介護）と違うため“通所”という単語を用いません。デイサービスのように違う、それが小規模多機能型居宅介護「多機能ホームまどか」の良さでもあります。



必要に応じて行ったり来たり

ある日の朝、まどかからケアサポートえん（訪問介護）に異動したスタッフから「Sさんが雨の中ビショビショになって小学校の近くを歩いているよ」と連絡があり、すぐ迎えに行きました。

“Sさん！”と声をかけると、泣きそうな表情で「アッ！知ってる！知ってる人だ！」と走ってきました。Sさんは大雨の中、壊れたビニール傘といつもの手提げを持ってまどかを目指したようです。車に乗ると「ゴメンネ、ゴメンネ、わかんなくなっちゃった。よかった、知ってる人で」と涙を流していました。一緒に自宅に戻って濡れた服を着替えてから、まどかの通いサービスに。いつもと違うことがあった朝だけど、自宅と行ったり来たりした朝だけど・・・、そのあとは安心した表情で過ごされました。

利用者さんに合わせて

通いの日の朝、いつもは妻がHさんを送り出して下さいますが、この日は出てこられず、「お願いします」と奥から声が聞こえ、お部屋に入らせていただきました。Hさんはベッドに横になって、目覚めてはいるけど起きられない様子。

「Hさん、まどかです。おむかえにきました」と声を掛けますが、一点を見つめて瞬きばかりで返事もなく、起きる様子もありません。妻と相談して、1時間後に伺うことにしました。

再び伺うと、ご近所さんが見守っていて、「ご苦労様」と声をかけてくださいます。Hさんはベッドに座っていたので、声を掛けるとニコリとして立ち上がり歩き出しました。そして、一緒にまどかに向かいました。

Hさんは、まどかにいる時も、声掛けで動ける時とそうでない時、そして何か作業されている時があります。特に作業に夢中な時は、なかなか他の行動に移るのが難しいようです。帰る時間が伸びることもあります。ちょっとしたきっかけで行動できることもあります。

どんな時でも、できるかぎり本人の気持ちや体調に合わせて対応できるのが小規模多機能居宅介護です。